

5 エクステンションに関する事項

本学におけるエクステンション活動は、1989年の瀬田キャンパス開設を契機として、具体的な展開を迎えることとなった。瀬田キャンパス開設の使命の一つである「地域に開かれた大学の創造」は、まさにエクステンション（普及）の理念を具現化するものであり、それまで大学の機能として考えられていた「教育」と「研究」に、新たに「エクステンション」活動を本学の第3の機能として加えることとなった。

それ以降今日まで、本学の教育・研究の成果を広く社会に還元し、また社会に存在する多様な資源を大学の教育や研究に取り込むことにより、本学の教学の新たな発展を期し、様々な活動を行う中で地域に根ざした大学づくりを目指してきた。

第4次長期計画においては、RECの使命であるこのエクステンション活動を「社会連携政策」と位置づけ、その活動の一層の拡充を目指している。今後の社会においては、これまで以上に地域との連携の重要性が高まることが予測され、「共生くともいき」をめざす「グローバル大学」をスローガンに掲げる本学においては、より一層、エクステンション事業の重要性を強く認識し、それぞれの事業を展開していく必要がある。

1 REC事業について

1 生涯学習事業の展開

生涯学習事業であるRECコミュニティカレッジについては、龍谷大学の特徴を最大限に生かすことができるよう、仏教・こころ、文化・歴史、文学をはじめ、語学・資格などのコースを用意し、多種多様なジャンルの講座を開講する。その上、源氏物語千年紀関連企画、学び直しに意欲を持つ女性のための子育て応援プログラムなど、社会動向、ニーズを考慮した講座を含め、年間約370講座の展開を行うことで、引き続き、地域への知的資源の還元を目指す。さらには、首都圏における本学の認知度向上を目的として「RECコミュニティカレッジ東京」を3シリーズ、年間9講座を開講し、大阪においても「RECコミュニティカレッジ大阪」として2シリーズ、年間6講座を開講する。また、Web予約をはじめ多様な受講生ニーズへの対応と業務の効率を両立すべく、新REC講座システムの開発にも取り組む。

龍谷講座については、その役割がRECコミュニティカレッジにおいて、発展的に果されつつあることから規模を縮小し、前期3講座、後期3講座の年間6講座を深草キャンパスで開講する。このほか地方自治体等との連携講座など、地域社会との積極的な相互交流を図る。

2 産官学連携事業の展開

これまでの事業展開により蓄積されたRECビジネスネットワーククラブ（REC BIZ-NET）をはじめとする産官

学ネットワークを基盤として、さらなる事業展開を図る。

具体的には、理工系・社文系とも産学のマッチングに繋がり得る研究シーズの発掘と競争的学外資金の獲得に注力する。さらには、BIZ-NET会員企業（レンタルラボ企業を含む）や地域の中小・ベンチャー企業に対する研究開発支援やマネジメント支援等を行ない、新事業創出に意欲的な企業を交えてプロジェクト（研究会）を創成する。特に理工系では、学術研究の振興を図る研究部と、その成果を本学の知的財産として管理・活用・保護・育成する知的財産センターとの「三者一体」の連携により、研究成果の活用を促進する。また社文系では、社文系研究シーズを活用した産学共同事業や、産学連携による人材育成・人材確保に向けての検討を行なう。

これらの推進にあたって、RECが立地する地域（京都、滋賀、東大阪）の特性を活かしながら、周辺自治体との地域連携包括協定の検討や、産業支援機関・各種経済団体との連携など、社会地域との連携強化を図る。

3 施設開放の展開

エクステンション事業の一環として、RECホール（瀬田キャンパス）・紫光館（深草キャンパス）を中心とする施設の開放を促進する。

2008年度においては、使用頻度が高いRECホール内の小ホール及び一部の講義室について、1994年以降使用し続けているAV機器等の設備を更新し、最新のメディアを用いた生涯学習講座や産官学連携事業における研究会・セミナー等に対応する。

RECレンタルラボについては、過去に退去した企業の再入居も可能となるよう規程を改正することにより、入居企業を拡充し、共同研究等の産学連携を更に活性化させる。

また、生涯学習講座におけるニーズに対応するため、RECホール内の一室を活用して、コミュニティカレッジの受講生を対象に、子どもの一時預かり（2008年度は土曜日のみ）を実施する。

4 学生ベンチャー育成事業の展開

ビジネスプランコンテスト『プレゼン龍』を中心に培ってきた7年間の実績と成果、さらに本事業を取り巻く環境の変化を踏まえ、時代のニーズにマッチしたセカンドステージを目指す。応用力・実践力を備えた学生の育成をめざす「教育事業」は、更なる参加学生の拡大を図ると共に、他大学をはじめ他機関における各種コンテストや創業支援講座を視野に入れた事業展開を推進する。学生ベンチャーの創出支援を目指す「インキュベーション事業」は、起業を積極的にめざす学生を対象を絞り、産学連携分野でのネットワークを活用するなど、支援体制の充実を図る。なお、ビジネスプランコンテスト『プレゼン龍』をはじめとする「イベント事業」は、学生実行委員会の主体的な活動と位置づけ、起業家精神やビジネス社会への参画意識の啓発を行う。

5 福祉フォーラムの展開

本格的な地域福祉時代の到来を受けて地域（住民）、NPOを含めた「社会福祉現場」や「専門職」に焦点をおいた活動（事業展開）の展開を図る。具体的には、昨年度に引き続き社会福祉をテーマとしたフォーラム・公開講座の開講や、専門職向けセミナーを実施する。さらに、会員向けフォーラム通信の発行などを実施し、フォーラム会員制度の充実をめざす。また、社会福祉や地域の現実が大学に要求しているものは何か、社会福祉分野における高等教育研究機関として本学が取り組むべき社会貢献活動とは何か、といった視点を軸として、地域福祉の現場と研究者の双方向による情報交流の中心点として活動を展開していく。

6 知的財産に関する取り組み

2008年度は、従来どおり教員への個別ヒアリングを通じて発明の発掘作業や啓発活動をおこなう。出願された発明については、単独出願は技術移転を目指しRECや関西TLO等と連携を図りながら速やかに対応していく。また、共同出願についても、共同出願企業等と連携をとりながら、さらなる研究活動に結びつけるとともに、出願特許の実施状況等を把握していく。今後も社会に還元される発明の特許出願を目指し、知的財産活動を展開していきたい。

併せて、既出願案件の審査請求を実施していく。拒絶通知への対応は、顧問弁理士事務所及び顧問弁護士事務所と連携を図りながら権利確定を目指す。また、案件によっては外国での出願・審査請求もおこなっていく。

引き続き、特許庁および発明協会等の関係諸機関との関係を維持していくことにも努める。